

図書館だより

No. 11
平成 28 年 3 月 18 日発行



寒い寒いと言っている間に春がもうすぐそこまでやって来ました。花粉症の人にとっては辛い季節の始まりですが、春は暖かな陽気に誘われて外へと出かけたくになります。お花見がてら散歩をするのも、早起きしてちょっと遠くまで出かけるのも、テラス席でお茶をするのも、きっと楽しい時間になるでしょう。寒い時には外出を億劫に思っていた人も明日から始まる春休みの期間を利用して、春の訪れを感じながらの外出を楽しんでみてください。図書館にも旅行や街歩きのためのガイドブックがたくさん揃っています。活用してください。

また、春休みには新学期に向けての準備期間でもあります。新しい学年になるにあたり、どんな目標をみなさんは掲げるでしょうか。部活動をさらに頑張りたい人、成績アップを目標にしたい人、目標はそれぞれあるかと思いますが、図書館でもみなさんの目標達成の応援として、モチベーションを上げるのに役立つ本探しを図書館でもお手伝いします。休みの期間にモチベーションをあげて、4月には良いスタートを切っていきましょう！！

ウォーキングって楽しい*

291.3-シ『関東ウォーキングコースガイド』 重信 秀年 || 著 メイツ出版

春の陽気に誘われて外へ出かけるなら、楽しくあちこちを歩いてみませんか。この本では、関東圏内、一都六県のおすすめウォーキングコースが紹介されています。歴史が感じられるコース、自然に癒されるコース、どの道にも、のんびりと落ち着いた景色が待っていて、体だけでなく心までを健やかにしてくれそうです。「都内にもこんな景色が残っているんだ」とか「いつも電車で通り過ぎているこの街にはこんな見どころがあったんだ」と読んでいただけで色々な発見があります。実際に歩いてみれば、きっとさらなる魅力と出会えることでしょう。友だちや家族を誘って、歩きながら健康な体も手に入れてください。

考える力を身につける*

376-ニ-1『テストの花道』 NHK『テストの花道』制作チーム || 著 河出書房新社

誰でも効率よく勉強をして、成績を伸ばしていけたらいいなと思いますよね。それを叶えるのは不可能なことではありません。そのためには、まず勉強の仕方を知ることが大切です。今の自分のやり方では、どこがいけなかったのかを分析し、どう改善していくか。また、どんな工夫をしていくことが効果的か。この本を読んでいると、そうしたことが自然と身につく、わかってきます。また、「こうすればいいのか！」と気づくことが、やる気にも繋がるのを感じます。苦に感じることなく、前向きな気持ちで勉強に取り組めるようになって、新学期からも頑張っていきましょう。

図書館カレンダー

3月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

□ 開館日 ■ 閉館日

開館時間 * 9 : 00 ~ 17 : 00

4月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

春休み、のんびり読むならこの本

913.6-ミ『桜ほうさら』 宮部 みゆき || 著 PHP研究所

舞台は江戸時代。わけあって上総国搦根藩から江戸へ出て長屋住まいをしている武士の笙之介。武士とは言っても剣術が苦手な笙之介は、生計を立てるため写本作りをして暮らしている。ただし、その裏には、父の汚名を返上するという目的があった。江戸の暮らしにも写本作りにも人付き合いにも慣れてきた頃、いよいよ身の回りで事態が動き始める。そこでは、また新たな出会いがあり、事件が起こる。笙之介はこれも縁とばかりに、その都度、尽力し、解決の糸口をつかんでいく。そして、真の目的にも少しずつだが近づいていく。気が優しく、人に愛される笙之介に待ち受ける父の陰謀の間は悲しく重い。けれど、周りで世話を焼き、支えてくれる人々の温かさが救いとなり、彼は成長をしていく。

913.6-ミ『山女日記』 湊 かなえ || 著 幻冬舎

山が好きというだけではなく、様々なきっかけと思いを持って、山に登る人たち。なぜか気の合わない同僚と山に登ることになった人、何か企みがありそうな姉に誘われてきた人、三度目の挑戦で頂上を目指す人、色々な人がいますが、どの山もその人を大きくどっしりと受け入れ、そして、小さな変化のきっかけを手渡してくれています。

山が見せてくれる美しい風景や登り切った爽快感、疲れた体に染みこむ食べ物のおいしさ、読んでいただけで次から次へと伝わってくる山の魅力に「山に登るのって楽しいかも」と興味が湧いてきます。この春はみなさんも山ガールデビューしてみてもは、いかがでしょうか！？

🌞 今月の知っておきたい〇〇の世界 🌞

今月の知っておきたい〇〇の世界も今回が最終回となりました。最後はみなさんに本の世界を紹介します。

普段の生活の中でみなさんは本に触れているという自覚はありますか。朝読書で使う学級文庫の本、授業で開く教科書、放課後に図書館で触れる本、家でパラパラとめくる雑誌、どれもみんな“本”ですよね。本が好きでもそうでなくても何の気なしに普段からみなさんは本に触れて、生活を送っているのです。

もちろん、そこから本好きになってくれたら、もっと嬉しいところですが、それは本とみなさんひとりひとりの縁ですから、私たちは図書館から「いい縁となりますように」と願い、きっかけづくりのお手伝いをするばかりです。今回は色々な視点からおもしろさを感じてもらえるよう本の世界を紹介します。



本をつくろう*

022-ム『和装本のつくりかた』 村上 翠亭/山崎 曜 || 共著 二玄社

和装本とは、巻物や折本などを含む日本古来の装幀の総称です。今ではなかなか和綴じの本に触れる機会はないかもしれませんが、自分でつくって、その仕組みを理解しながら実物に触れてみませんか。和装本の綴じ方には、糊を用いる方法と糸を用いる方法がありますが、この本には写真付きの丁寧な解説で両方の綴じ方が載っています。特に布ではなく紙を針と糸で綴じるといのは、おもしろい体験だと思います。

自分の気に入った和紙を探して、和紙の味わいを活かした素敵な和装本を完成させてみましょう。使う紙で雰囲気も随分変わりますので、色々なデザインの和紙で試してみてください。

魅惑の本屋さん*

024-セ『世界の夢の本屋さん』 エクスナレッジ

みなさんにはお気に入りの本屋さんや行きつけの本屋さんはありますか。本屋さんは単に本を売っているところではなく、訪れる人にとって居心地のよい空間となっており、ディスプレイやレイアウトにはその店の工夫とこだわりがあり、それぞれが異なった雰囲気を持っています。そんな本屋さんの魅力を一挙に知ることのできるのがこの本。近代的でかっこいい本屋さん、アンティークな雰囲気漂う本屋さん、おしゃれなカフェみたいな本屋さんなど、世界のあちこちの本屋さんの紹介とそこで働く人の声が載せられています。どの本屋さんも1日中そこにいたくなくなってしまうような魅力にあふれています。また本屋さんで働く人の思いを読んでいると、書店員という仕事にも興味が湧いてきます。

本の専門家は魔女！？*

010-オ『司書はふたたび魔女になる』 大島真理 || 著 郵研社

アメリカの大学図書館での経験も持ち、図書館学講師の顔も持つ司書による、図書館をめぐるおはなしと本や映画の四方山話です。著者にとって図書館の一番の基本は、本を借りたり読んだりするところだと言います。読みたい本がたくさんあり、森を彷徨うように書棚を散策して欲しい、そして豊かな本にめぐり合ってほしいと願う著者の語るおはなしはとても人気で、他にも2冊ほど出版されています。とくにこの巻では、みなさんに馴染みの深い本も紹介されていました。『ナルニア国物語』に出てくるプリン問題や、司書の目線で見た『図書館戦争』、最近ドラマ化された『わたしを離さないで』などです。本だけでなく映画にも話はおよび、この本を読むこと自体が、森を彷徨い宝物を見つけ出すような気持ちになります。どんな魔法が読者に向けられるかは、読んでのお楽しみです。

📖 図書館司書の「今月はこの本を読みました」 📖

飛鳥井千砂さんの『女の子は、今日も。』(913.6-ア 幻冬舎)を読みました。

主人公は32歳の女性4人。高校時代の同級生だった4人は偶然の重なりによって14年ぶりに東京で再会を果たします。再会をきっかけに月1で集まるようになった4人はその場に居心地のよさを感じながらも、相手を羨んだり、妬んだり、そんな自分が嫌になったり、色んな葛藤をしていきます。それは“女の子”の時から抱えていたものなのですが、再会をきっかけに心の奥から浮上してきます。「もしかして、お互いの関係が崩れてしまうのでは」とドキッとすることも起こりますが、一歩踏み込んだことで、4人の絆が強くなり、最後は「ああ、よかった」とホッと胸をなでおろすことができました。大人になったからって、何もかもが上手できるようになるわけではなく、“女の子”の頃と変わらず、大人女子も紆余曲折しながら生きているのだなというのを楽しみ感じる本でした。【今井】



『奇跡の猫ビリー』 ルイズ・ブース || 著 (936-ブ 竹書房)を読みました。

—出会った最初の夜から、二人(?)の友情は魔法めいているとしか言いようがなかった。—

人間の手伝いをしてくれる動物と言えど犬のイメージがあります。盲導犬に介助犬、セラピードッグ、災害救助犬。様々な分野で人間の良きパートナーとして活躍しています。一方、猫といえば自由気まま、芸の一つも覚えなし、むしろ人間を下僕と認めていいように利用している気さえます。ところが、猫保護協会からフレイザー少年のもとにやってきた猫ビリーは、違っていました。自閉症で筋緊張低下症のフレイザーとあつという間に友達になり、魔法めいているとしか言いようのない友情を育むのです。その友情がフレイザーにもたらした、成長の驚きと喜びの一つ一つは奇跡ではありません。でも、すべてが集まるとそれは奇跡と呼びたくなってしまいます。専門家の解説にもあるように、自閉症が改善したことは奇跡ではなく、組み合わせられた「要因」の問題なのでしょう。でも、そうしてビリーが加わったことで幸せな家族になれたことは、フレイザーの両親にとって奇跡以外のなにものでもなかったでしょう。収録された写真の数々からも、彼らの魔法めいた絆の微笑ましが伝わってきて、ほのぼのとした気持ちになれました。【鈴木】